

イノベーションや事業開発における中小企業の優位性と弱点

論文の主旨

日本産業における中小企業は99.7%の構成比を占め、日本産業に欠かせない存在である。近年、大企業でもイノベーションや事業開発における方法論が数多く示されるものの、組織的な要素によって、促進されないという問題が存在している。ここで言うところの組織的な要素とは、主には①企業家機能、②意思決定の迅速さ、にあるとされている。

先行研究では、中小企業と大企業におけるイノベーションに至るプロセスに差は認められていない。一方で、経営資源の制約は弱点となるため、それらを克服するための方法を研究し、適用事例を示すことで、中小企業の発展に寄与できると考えた。

中小企業には、イノベーションや事業開発に必要な組織的な要素である、①企業家機能が高く、②意思決定の迅速さ、については大手企業よりも優位性があるとされている。一方で、中小企業には経営資源の制約も多く、特に、資金面・組織面の制約に直面し、イノベーションや事業開発の阻害要因となっていることが数多く見受けられる。

本論文では、中小企業の優位性を阻害することなく、中小企業における弱点である、資金面の制約を政府等補助金の有効活用、組織面の制約を企業内での事業開発ワークショップを通して克服した適用事例を示す。

発表者の紹介

氏名	岡部 寛央 コンサルタント コンサルティング統括事業部 脱炭素推進コンサルティング部
専門分野	経営ビジョン策定、経営戦略策定、経営計画策定、財務戦略・人事戦略策定と実行支援
コンサルティング歴	自動車部品製造業、産業機械部品製造業、小売サービス・卸売業など幅広い業種で経営の伴走支援を担当